

①自然再生事業とは？

自然再生事業とは、損なわれた自然を積極的に取り戻し、生態系を本来あるべき姿に回復させることを目的とした事業です。



事業実施箇所位置図



②北上川と旧北上川の分流点における課題

洪水から地域を守るため、昭和7年に完成した輪波洗堰と脇谷洗堰には、魚の上下流への移動を自由にできるように、「魚道」が設置されていました。



戦前の脇谷洗堰

しかしその後、下流の水面の低下により、魚道と水面に大きな落差が生じたため、**多くの魚が遡上（移動）できなくなってしまい、魚の生息環境を改善することが課題となっていました。**



落差が大きく流れも速いため魚がのぼれない

輪波洗堰魚道



落差（水がほとんど流れていない）

脇谷洗堰魚道



魚道を遡上できないサケ

③自然再生の取り組み

問題点：魚道が十分に機能していないため、魚が川を自由に移動できず、生息環境に影響が生じています。

歴史的建造物である2つの洗堰に影響を与えないように配慮しつつ、魚が自由に移動できるように、**分流施設の魚道の改善をおこない、大きな落差の解消や、魚がのぼりやすい環境をつくります。**

※輪波洗堰、脇谷洗堰は平成16年に土木学会選奨土木遺産に認定されています。

④取り組みによる効果

魚道の新設や改善を行うことにより、アユやサケ等の魚が自由に移動できるようになり、**堰の上流側で魚種や個体数が増えつつあります。**また、魚類の生息範囲が拡大されることで、**北上川水系が本来持つ生態系の機能の回復が期待されます。**



魚道を移動するアユとサケ

魚道が障害となり魚が自由に遡上できないため、上流側の個体数が少なくなっています。

魚道の新設したことにより魚が自由に遡上できるようになり、上流側の個体数が増えています。

